教室から

富士宮高校会議所

「笑い」で地域おこし継承

上新たな「笑い」への取り組みをPRする富士宮高校会議所のメンバーたち（富士宮市内で）

下ユーモアのある仕掛けで富士宮やきそばを有名にした渡辺英彦さん（2014年撮影）

「笑い」にちなんだ新しい地域おこしに取り組もうと、富士宮市の高校生でつくる団体「富士宮高校会議所」が「富士宮を笑いで、元気に!!」プロジェクトを今月からスタートさせる。モデルは、遊び心ある造語を発信してきた「富士宮やきそば学会」元会長の渡辺英彦さん。ご当地グルメブームの仕掛け人として富士宮やきそばを一躍有名にした伝説の人物だ。

渡辺さんは、焼きそば店の味の調査員「やきそばG麺（メン）」、焼きそばの引き換えチケット「麺財符」、秋田県横手市、群馬県太田市と結んだ焼きそばのまちづくりの協定書「三国同麺」など、ユーモアあふれる言葉を創作してきた。

その「笑い」のパワーで、富士宮やきそばへの注目を全国から集め、知名度の高いご当地グルメに成長させたが、2018年に享年59歳で志半ばに死去した。

そんな渡辺さんにあやかろうと、会議所で考えたのが今回のプロジェクト。その第1弾として、「宮O1グランプリ（みや大喜利コンテスト）」「宮D1グランプリ（みやダジャレコンテスト）」の二つのコンテストを始めることにした。

「大喜利」は、メンバーが複数のお題を用意し、それに答えてもらう。「ダジャレ」は特に制約はなく、富士宮を元気にする内容なら何でもOKだ。

会議所のメンバーが作品を審査し、入賞者には図書カードや麺財符などを贈呈する。

◇

会議所はこれまで、環境保護や地域の特産品づくりといったやや硬派なテーマに取り組んできた。21年度の「第7回全国ユース環境活動発表大会」（環境省、環境再生保全機構、国連大学主催）では活動が評価され、読売新聞社賞にも輝いた。

今回新たに「笑い」の世界に進出したことについて、会議所の会頭を務める吉村未夢さん（星陵高3年）は「活動の幅を広げ、新たな力を得たい」と意欲を語る。

「富士宮やきそば学会」代表理事の渡辺孝秀さんは「ユーモアに富んだ巧みな言葉遣いは、情報発信力そのもの。渡辺英彦さんの思いを継承し、まちづくりに生かしてもらいたい」と会議所の挑戦に期待を寄せている。

◇

両コンテストは、今月15日から11月30日まで作品の応募を受け付ける。誰でも参加でき、市外からも可能。表彰式は、「黄麺（オーメン）忌」と名付けられた渡辺英彦さんの命日12月19日に行う。

詳細は、会議所ホームページ（https://fujinomiya-hsc.com/）で案内している。

（関口雅友）

宮O1グランプリの出題例

▽源頼朝が高校生として富士宮やきそばを食べて、一言
▽織田信長が西山本門寺を高校の遠足で訪れて、一言
※同寺（富士宮市）には信長と伝わる首塚がある
▽曽我兄弟が高校生として歌手デビュー。曲名は？
※曽我兄弟のあだ討ちは1193年、富士の巻狩りのさなかに起きたと伝わる

静岡青果（単位・キロ）

	【静岡】中央卸売市場			【沼津】中央青果	高値	安値	【浜松】中央卸売市場	高値	安値
ダイコン	10	1080	972	10	1404	864	1	108	32
ニンジン	10	1458	—	10	1620	1080	1	194	54
		2700		10	2700	—	1	734	702

ウクライナの
サイバーとプ
あの波を思い
高止まり感染

時

Daichi TV 8日のまるごと

夕方 4.50放

【あさがや手帖】静岡産ナチュラルチー
ショウガとの相性バツグン!?モッツァレ